

仲道郁代
The Road to 2027
リサイタル・シリーズ

2026年シーズン

The
Ikuyo
Nakamichi
Road
to
2027

仲道郁代の音楽のこゝろ

The Road to 2027 各プログラムへの仲道のメッセージより

パッションと理性

相容れない二つの概念の狭間
そこには自らのあり方を
レゾナードルを探る
作曲家の姿が見えてくる
そんな問いを放ち
音の向こう側に聴こえてくる感覚に
身を委ねる

悲哀の力

悲しみと哀しみ
この二つの言葉が重なったとき
実は 密やかな ささやかな
抵抗の力を感じるのだ
悲哀の中から立ち上がる力というものがある
そこには必ず潜んでいる

ドビュッシーの見たもの

音は空気に溶けている
音の分子は空気の形を造りだす
音の分子の連なりは 光を生み 躍動する
現在 過去 未来も
自在に越えさせてくれる
変化自在な具象と抽象
変化自在な現実と幻想
それらが音のプリズムになって香りたつ
その音のプリズムに溶けてみたい

幻想曲の系譜

——心が求めてやまぬもの
幻想曲——それは即興的な想念の連なり
求めてやまない想いを音に記してきた
作曲家たちの系譜が そこには見えてくる
ままならない想いに心がざわつき
それでも夢を見る 見ようとする
そこに共通するのは 生きることの煌めき

幻想曲の模様

——心のかげらの万華鏡
憧れ 希求する心は
壊れたかけらのように
さまざまな様相を持っている
それらが 幻想という即興的な想いの
膨らみとなったとき
それぞれの作曲家へふり降り
心の傷を包み込んだ音とは
どのようなものであったのか
ただただ 音に耳を傾けてみたいと思う

知の泉

作曲家がその音楽でもって
立ち昇らせる概念
その音が満ちていく様は
「知の泉」ともいえるものだ
音の渦の中に
生への定義が聴こえてくる

前奏曲 ―― 永遠への兆し

プレリュードとは何のための
前奏なのだろう
前奏曲が「生きている感覚」
なのだとしたら
その次に来るものとは……
プログラムの最後に鳴り響く
“鐘”の音のなかに
私は あなたは 何を聴くのだろう

劇場の世界

人生はままならないものだ
だから劇になぞらえられる
そのドラマの中に私たちは
私たち自身をも見つけることが
できるかもしれない
そしてこのままならない人生が
愛しく思えてくるに違いない

ブラームスの想念

流れゆく時間に 人生の重みを思い返す
そこに浮かぶのは 痛み
揺れ動く気持ちを包んで沈めてくれるのは
愛か許しか それとも神なのか
さまざまに浮かび上がる
ブラームスの想念の中に
私たちの想いが交錯する

夢は何処へ

幸せを夢見る
けれどその夢は 探したい幸せは
いったい何処にあるのだろう
問い続け 果てしなく追いかける
幸せという夢
ベートーヴェンが シューベルトが
私たちに見せてくれる場所を
幸せを探してみたい

シューベルトの心の花

私たちは知っている
自分という灯が いつか消えゆくことを
シューベルトは 在ることのその先へ
憧れを見た 透明な憧れを
彼が紡いだ音の一つ一つは 花卉となり
彼の心に 私たちの心に
幾重もの花がひらいていく

高雅な踊り

太古の昔から人には 身体には
内なる踊りのリズムがある
それは神へ捧げる祈りとなり
愛する気持ちを表すものとなり
苦しいときには勇気を与え
時に狂気すら呼び起こした
作曲家は必然として
踊りの心の様を昇華させた
そこには 今を生きる私たちの願いや想いを
重ねることができるだろう

ラヴェルの狂気

言葉が映し出す音たち
ラヴェルのピアノの音が
面妖な異次元の世界へと 煌めき誘う
そこに見るものは？
聴くものは？
言葉と音が極まり
境界はぼやけて重なり
私をも消してしまう



「悲哀の力」
2019年5月26日
サントリーホール
©N.Ikegami



「シューマンの夢」
2019年10月27日
東京文化会館
©N.Ikegami

2018年からスタートした10年にわたる壮大なシリーズ「The Road to 2027」は、ついに九年目の到達点を迎えます。

ベートーヴェンを核に音楽を哲学的に探究する「春のシリーズ」では、作曲家たちが音に託した思想を読み解き、美学的アプローチを取る「秋のシリーズ」では、作品の響きとピアノズムの中に美の本質を探ってきました。終盤に差しかった今、仲道郁代の演奏解釈は独創性を増し、ますます深奥に迫っています。仲道郁代が辿り着く世界を、どうぞご一緒ください。



「悲哀の力」2019年5月26日
サントリーホール ©N.Ikegami

2018年

春 パッションと理性

モーツァルト：ピアノ・ソナタ K.310
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番
「熱情」 Op.57
ブラームス：ピアノ・ソナタ第3番 Op.5

秋 ショパン ～プレイエルの響き～

ショパン：
バラード第1番 Op.23、
バラード第2番 Op.38、
バラード第3番 Op.47、
バラード第4番 Op.52、
24の前奏曲 Op.28

2019年 春 悲哀の力

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」 Op.13
ブラームス：8つのピアノ小品 Op.76
シューベルト：ピアノ・ソナタ第19番 D958

秋 シューマンの夢

シューマン：
アレグロ Op.8、幻想小曲集 Op.12、
予言の鳥 Op.82-7、
ピアノ・ソナタ第1番 Op.11

思索するピアニスト NAKAMICHI

仲道郁代のベートーヴェン演奏が進化・深化し続けている。それはまさに音楽修辭学の実践だ。バロックの音形論とか情緒論といった厳格な理論ではなく、むしろ詩学というトポスの探索だ。どんな小さな音形や主題にも意味があり、特定の情念を喚起させるという仲道の演奏姿勢がもたらすベートーヴェン解釈が説得力をましている。シリーズ各回につけられたテーマそのものがすでに一つのトポスとなっている。

平野 昭（音楽学者・評論家）

2027 リサイタル・シリーズ



「ドビュッシーの見たもの」
2020年10月25日
東京文化会館
©N.Ikegami



「劇場の世界」
2023年6月3日
サントリーホール
©N.Ikegami

2020年

春 音楽における十字架

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第22番 Op.54、
第21番「ワルトシュタイン」Op.53
ショパン：2つのノクターン Op.48
シューマン：ピアノ・ソナタ第3番 Op.14

2028年に延期（会場未定）

秋 ドビュッシーの見たもの

ドビュッシー：前奏曲集
第1巻、映像 第1集、
映像 第2集、喜びの島



「The Road to 2027」
からの初のライブ・
レコーディング

2021年

春 幻想曲の系譜

～心が求めてやまぬもの～

モーツァルト：幻想曲 K.475
シューマン：幻想曲 Op.17
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第28番 Op.101
シューベルト：さすらい人幻想曲
D760 Op.15

秋 幻想曲の模様

～心のかげらの万華鏡～

ブラームス：2つのラプソディ
Op.79より第1番
シューマン：クライスレリアーナ Op.16
ショパン：幻想曲 Op.49
スクリャービン：12のエチュード
Op.8より第1番、第12番、
幻想曲 Op.28

令和3年度
文化庁芸術祭
「大賞」
受賞

2022年

春 知の泉

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第17番「テンペスト」
Op.31-2
ショパン：バラード第1番 Op.23
リスト：ダンテを読んで S.161-7
ムソルグスキー：
組曲「展覧会の絵」

秋 前奏曲 ～永遠への兆し～

ドビュッシー：前奏曲集 第2巻
ラフマニノフ：前奏曲集 Op.23より
第2番・第5番・第7番、
前奏曲集 Op.32より第2番・第5番・
第8番・第10番・第11番・第12番、
前奏曲「鐘」Op.3-2

「The Road to 2027」のプログラムを見て驚いた。毎日が考え抜かれた組み立てで、しかも仲道さん自身によってテーマが掲げられている。このテーマの下でこの曲が演奏されるのなら、哲学をやってきた私にも語ってみたいことが山ほどある！ 何しろベートーヴェンは、音で哲学しちゃった人なのだから。かくして毎年私ども慶應義塾大学文学部に仲道さんをお招きし、その年のテーマに合わせたお話を伺いながら一緒に議論させていただく至福の時をすごすこととなった。真摯にしてゆめめ探求心に裏打ちされてますます奥行きと深みを増す仲道さんのベートーヴェンは、毎回新たな発見にうち満ちている。

斎藤慶典（哲学者・慶應義塾大学名誉教授）

「実体のあるものも、ないものも音に変換されてそこにあるかのよう」に立ち昇る……と、仲道郁代さんはドビュッシーの本質を語っています。その演奏は、言葉通りに、作曲家が音に込めた微細な気配までも見事に映し出していました。音楽へのこの深い感応力が、ショパンやシューマンの魂の哀しみに、シューベルトやブラームスの真摯なひたむきさに、スクリャービンの色彩にみちた神秘に、ラフマニノフの抒情の劇性に、ラヴェルの粋な佇まいの裏に隠された真実に……光を当ててくれることでしょう。

松橋麻利（音楽学者・ドビュッシー研究家）

九年目の到達点



「シューベルトの心の花」2024年10月27日
東京文化会館 ©Tomoko Hidaki



「夢は何処へ」
2024年6月2日
サントリーホール
©N.Ikegami

2025年

春 高雅な踊り

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ
第24番「テレゼ」Op.78、
第25番 Op.79、第26番「告別」Op.81a
リスト：メフィスト・ワルツ第1番
「村の居酒屋での踊り」S.514
ラヴェル：優雅で感傷的なワルツ
ショパン：ワルツ「告別」
Op.69-1、ワルツ Op.64-2、
ポロネーズ第6番「英雄」Op.53

秋 ラヴェルの狂気

ラヴェル：水の戯れ、鏡、夜のガスパール



「高雅な踊り」
2025年6月1日
サントリーホール
©N.Ikegami

2023年

春 劇場の世界

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ
第19番 Op.49-1、第20番
Op.49-2、第18番 Op.31-3
シューマン：パピヨンOp.2、
謝肉祭Op.9

秋 ブラームスの想念

ブラームス：7つの幻想曲 Op.116、
3つの間奏曲 Op.117、6つの小品
Op.118、4つの小品 Op.119

2024年

春 夢は何処へ

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第27番 Op.90、
第13番 Op.27-1、
第14番「月光」Op.27-2

シューベルト：
ピアノ・ソナタ第18番「幻想」
D894 Op.78

秋 シューベルトの心の花

シューベルト：
4つの即興曲 D899 Op.90、
4つの即興曲 D935 Op.142



「前奏曲」
2022年10月29日
東京文化会館
©Tomoko Hidaki



「シューベルトの心の花」
2024年10月27日
東京文化会館
©Tomoko Hidaki

音と想念の響き合う旅路

Road——旅路は、目的地ばかりを追いがちな私たちに、一つ一つの風景のかけがえのない魅力を示す。ベートーヴェンのピアノ・ソナタの足跡を10年にわたって辿る仲道郁代さんの旅路もまた、20の主題に即して小道へと分岐し、思いがけない曲を引き寄せながら、聴き手を音と想念の交差する世界へと誘う。2024年春の《夢は何処へ》の折りに私は仲道さんと対談する機会に恵まれたが、仲道さんの自由に飛翔する想像力はベートーヴェンとシューベルトの織りなす「夢」の地平を探索する喜びに満ちていた。終盤を迎えたこの旅路は、ベートーヴェン晩年のピアノ・ソナタを一つの道標としつつ、思索と音楽が共鳴する充足の時を私たちにもたらししてくれるにちがいない。

仲道郁代さんの音楽は心から心へと向かう。そのために、作曲した人たちのこと、また曲が生まれた文化圏や時代のことも、歴史・思想・美学などあらゆる側面から学び尽くそうとし、その上で、その音楽がいま鳴り響くことの意味を考え抜く。研究者の私も、仲道さんの探究の真っすぐさ、強さ、深さにしばしば圧倒される思いだ。皆さまにも、仲道さんの魂からのメッセージをぜひライブで体験していただきたい。そして、現在のような時代にあっても、心を籠めることで生きる意味と豊かさは見えてくるのだということを確認していただきたい。

糸川麻里生（ドイツ文学者・慶應義塾大学教授）

小田部胤久（美学者・日本学士院会員）

2026年



春のシリーズ

音楽の哲学

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第30番 Op. 109
 ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第31番 Op. 110
 シューベルト: 6つの小さなピアノ曲 Op. 19
 ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第32番 Op. 111

5月23日(土) 兵庫県立芸術文化センター
 KOBELCO 大ホール
 問合せ: 芸術文化センターチケットオフィス
 0798-68-0255

5月30日(土) アクトシティ浜松 中ホール
 問合せ: 浜松市文化振興財団 053-451-1114

6月6日(土) 宗次ホール
 問合せ: 宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

6月14日(日) サントリーホール
 問合せ: ジャパン・アーツ ぴあ 0570-00-1212



秋のシリーズ

組曲 ~調和と心慮~

バッハ: パルティータ第1番 BWV825
 ラヴェル: クープランの墓
 バッハ: イタリア協奏曲 BWV971
 バッハ: パルティータ第2番 BWV826
 グリーク: 組曲「ホルベアの時代より」 Op. 40

10月3日(土) 宗次ホール
 問合せ: 宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

10月4日(日) アクトシティ浜松 中ホール
 問合せ: 浜松市文化振興財団 053-451-1114

10月17日(土) 長岡リリックホール コンサートホール
 問合せ: 長岡市芸術文化振興財団 0258-29-7715

10月18日(日) サントミューゼ 小ホール
 問合せ: 上田市交流文化芸術センター 0268-27-2000

10月31日(土) 浜離宮朝日ホール
 問合せ: ジャパン・アーツ ぴあ 0570-00-1212

2027年

春 生と死の揺らぎ

ショパン:
 ピアノ・ソナタ第2番「葬送」 Op.35
 ベートーヴェン:
 ピアノ・ソナタ第29番
 「ハンマークラヴィアー」 Op.106

秋 変奏曲 ~生の命題を編む~

モーツァルト: きらきら星変奏曲 K.265
 シューマン: アベッグ変奏曲 Op.1
 ラフマニノフ: コレリリの主題による変奏曲 Op.42
 ベートーヴェン: 創作主題による32の変奏曲 WoO.80
 ブラームス: ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ Op.24

仲道 郁代 Official YouTube Channel

The Road to 2027 の関連動画を配信しています。



The Road to 2027×ベートーヴェン探求 深化は相乗作用する

仲道郁代はこれまで6度にわたるベートーヴェン全曲チクルスを実施しており、自身の音楽の核にはつねにベートーヴェンがあると語っている。2027年シーズンを目指して横浜みなとみらいホール、京都コンサートホールでのソナタの全曲演奏会や、サラマンカホールでの室内楽とソロを組み合わせたコンサートシリーズを行う他、ピアノを含む室内楽全曲を網羅する「ピアノ室内楽」シリーズをヤマハホールで展開している。また仲道はモダンピアノのピアニストでありながらフォルテピアノにも造詣が深いことでも知られている。シュタイン、ブロードウッド等のベートーヴェン時代のフォルテピアノを所有して研究を重ねたことが、モダンピアノ演奏への深みと独自性を加えることにもつながった。2026年からは武蔵野市民文化会館にて古楽器でベートーヴェンのソナタを辿るシリーズも開始される。協奏曲ではハンガリー国立フィルとの共演で「皇帝」を披露する他、全国の仲道の協奏曲の演奏会でもベートーヴェンが繰り返し取り上げられ、重要なレパートリーとなっている。

これらの成果はすべて、「The Road to 2027」の深化に大きく寄与すると同時に、「The Road to 2027」への取り組みが、仲道郁代の唯一無二のベートーヴェンへと結実している。

仲道郁代 ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ全曲演奏会

横浜みなとみらいホール 2026年9月6日(日)
第7回〈田園へのどやかなベートーヴェン、実り〉
問合せ：神奈川芸術協会 045-453-5080

京都コンサートホール 小ホール
2026年6月27日(土) 第5回〈最後の境地〉
問合せ：otonowa 075-252-8255

仲道郁代 ベートーヴェンの宇宙

サラマンカホール 2025年11月29日(土)
第4回〈ウィーンとナポレオン〉
問合せ：サラマンカホールチケットセンター 058-277-1110

仲道郁代 ベートーヴェン
“ピアノ室内楽”全曲演奏会

ヤマハホール 2026年8月28日(金)
問合せ：ジャパン・アーツびあ 0570-00-1212

古楽器によるベートーヴェン
ピアノ・ソナタシリーズ

武蔵野市民文化会館 2026年3月15日(日)
問合せ：武蔵野文化生涯学習事業団文化事業部
0422-54-2011

仲道郁代の音楽観

仲道郁代は日本を代表するピアニストとしてその演奏に高い評価を受けるとともに、音楽についての語りは多くの音楽ファンを魅了してきた。精緻な楽譜分析と多角的なアプローチによる研究をもとに一つ一つの音符に意味を見出していく演奏のあり方は、他に類をみないものである。仲道の演奏会では、これら研究に裏付けられた作品についての独自の語りとともに音楽を味わうスタイルが確立しており、聴衆が深い共感を得たり、新しい視点を持って聴いたりすることに大きく寄与している。

こうした仲道の演奏のあり方に決定的な影響を与えたものの一つが、社会的活動である。仲道は演奏活動を開始した頃より一貫して、音楽と社会とのつながりに関心を持ち続けてきた。10代の頃にアメリカ・ミシガン州に暮らしてプラグマティズムの影響を受けたこと、またドイツへの留

学で人と音楽の関わりを学んだことが背景にあると本人は語っている。社会におけるクラシック音楽のあり方への問いはさまざまな企画に帰結したが、特に2012年以降現在も続く宮城県七ヶ浜町での小学校での音楽アウトリーチをはじめとする子供たちへの音楽の届け方の研究が、仲道の演奏のあり方に与えてきた影響は大きい。

七ヶ浜町でのアウトリーチを含む仲道の社会的活動は、2019年以降は自身が代表理事をつとめる一般社団法人音楽がヒラク未来にて行われている。これらの活動が評価され、仲道は令和3年度文化庁長官表彰を受けた。



七ヶ浜町での音楽アウトリーチの様子

公式ウェブサイト

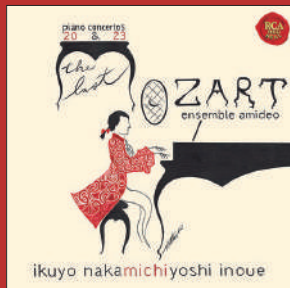


メールマガジン登録



仲道郁代と井上道義——最後の共演となった唯一無二のモーツァルト。

仲道郁代(♫) 井上道義(指揮) アンサンブル・アミデオ ザ・ラスト・モーツァルト



モーツァルト：

ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K. 466

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

〔演奏〕 仲道郁代 (ピアノ) | ヤマハコンサートグランドピアノ(CFX)、井上道義 (指揮)、アンサンブル・アミデオ [コンサートマスター：長原幸太]

〔録音〕 2024年12月16&17日 東京、第一生命ホール DSDレコーディング

〔解説〕 仲道郁代、沼野雄司、安田和信

絶賛発売中

定価 ¥3,630 (税抜価格 ¥3,300)

ハイブリッド・ディスク ● SICC 19086



Sony Music Japan International